

平成 29 年度 三宅村立三宅中学校 理科 授業改善推進プラン

三宅中学校における「確かな学力」

- ・授業に取り組む姿勢だけではなく、家庭でも学習しようとする学び続ける力… (学習意欲)
- ・各教科の基礎・基本を着実に身に付ける力 … (基礎学力)
- ・学んだことから自ら考え、判断し、より深く学ぶ力 … (思考力・判断力)
- ・自分の考えを表現し、人に伝える力 … (表現力)

	各学年の課題分析 (生徒の実態・指導方法)	具体的な授業改善策	補充的・発展的 指導計画
1 年			
2 年	<p>学力調査の平均値を見ると、すべての内容、領域において全国平均を上回っている。特に「技能」の観点全国平均を大きく上回っている。また、「物質・エネルギー」の領域に比べ「生命・地球」に関する正答率がやや低くなっている。正答率の分布では、上位、中位、下位と3極化が見て取れるが、特に下位、中位の生徒では「興味・関心」の観点が4観点中で最も低い値を示していることがわかる。課題設定の必然性、自ら調べ、解決したいという欲求をもたせることが特に重要と考える。</p>	<p>「何のために」調べるのかを生徒一人一人が意識することに重点をおき、学習内容を十分吟味したうえでの題材の提示を行う。</p> <p>「問題点を発見」→「解決方法の検討」→「具体的な実験方法の検討」→「実験」→「結果の分析」→「結論」→「まとめ」という一連の流れを定着させる。</p> <p>内容のまとまりごとに小テストを行い、知識の定着を図る。</p>	<p>結果の分析、結論については、レポートの作成やタブレット等を利用したプレゼンを行い表現力の向上を図る。</p> <p>家庭学習の習慣と知識の定着のため、定期的に問題集を宿題とする。</p>
3 年	<p>学力調査の結果から、明確な二極化が見て取れる。上位層は男子のみ、また、女子の多くは下位層に含まれている。下位層では1年同様に「興味・関心」の観点が他の観点よりも低い傾向が見られる。また全設問に対し無解答が6.7%と多額年と比較して(1年0.0%,3年1.8%)最も高くなっている。「説明せよ」という問いに対する無解答率は27.3%と高い割合にのぼっており、表現力に大きな課題がある。</p>	<p>学び合い学習の時間を設定しているが、より効果的な学習が出来るようにグループ編成に留意し、すべての生徒が、授業内で学習内容を理解できるようにする。</p> <p>「問題点を発見」→「解決方法の検討」→「具体的な実験方法の検討」→「実験」→「結果の分析」→「結論」→「まとめ」という一連の流れを定着させる。</p> <p>内容のまとまりごとに小テストを行い、知識の定着を図る。</p>	<p>実験・観察後の考察の時間を十分に確保し、人の考え方の理解と自分の考えを発表する力を身に付けさせる。</p> <p>家庭学習の習慣と知識の定着のため、定期的に問題集を宿題とする。</p>